

『精選 文学国語』（文国 702）年間学習指導計画作成のための資料

第一部

月	単元名	時数	教材名 ●学習目標	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
一	小説の言葉・詩の言葉 —文学国語へのいざない	5	夜中の汽笛について、あるいは物語の効用について ●物語の力について考える	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 「少女」は「少年の短い物語」（14・13）をどのように受けとめたのだろうか、話し合う。 2 表題にある「物語の効用」とはどのようなことだろうか、話し合う。 3 「少女」が「少年」に語る物語を創作する。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。(1)ア) ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(3)イ)
			詩はいつでも近いところにある ●詩の言葉の特徴を理解する	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 「言葉は、定められてしまうことから逃れようとしながら、それでも場所を得て、他の言葉を支えたり、あるいは飛び越したり、裏切ったりする」（16・8）とあるが、どういうことだろうか。説明する。 2 「そのようにして、言葉と出会うことができる」（17・5）とは、どういうことだろうか。「詩」の言葉についての筆者の考えをもとに説明する。 3 「詩はいつでも近いところにあるのだ」（18・11）とは、どういうことか。今までに読んだことのある詩を取りあげて、話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	思・判・表 ①文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。(読ア) ②作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。(読カ) 主(例) ・進んで言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解し、文章の種類を踏まえて内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えようとしている。
二	小説(二)	7	山月記 ●会話と地の文の関係に着目して、人物像を把握する。	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 虎になる前の李徴はどのような人物だったか、その性格・生き方を中心にまとめる。 2 李徴が、自分が虎になった理由について告白する内容を、次の表現に留意して整理する。 ①理由もわからずに……生き物のさだめだ。(26・3～4) ②ともに、我が臆病な自尊心と、尊大な羞恥心とのせいである。(30・6) ③飢え凍えようとする妻子のことよりも、……こんな獣に身を墮とすのだ。(32・11～12) 3 袁愔は李徴にとってどのような存在か、袁の人物や現在の境遇などに留意してまとめる。 4 袁愔は李徴の詩についてどのように考えているか、話し合う。 5 最後に李徴が「叢」を出て、「道の上に躍り出た」のはなぜだろうか、話し合う。 6 「山月記」は人間が「虎」に変身する小説である。変身をテーマにした小説には他にどのようなものがあるか、調べて発表する。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。(1)ウ) ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。(3)ア) 思・判・表 ①語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、解釈している。(読イ) ②作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。(読カ) 主(例) ・進んで文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深め、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して解釈しようとしている。

月	単元名	時数	教材名 ●学習目標	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
			少年という名前のメカ ●小説の寓意について考える。	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 「今までの少年たちとはちょっと違うよ」(37・14)とあるが、老夫婦の「今までの少年たち」に対する思いをまとめる。 2 「少年は細心の注意を払い、すべてを適度なバランスに保った」(38・8)とあるが、老夫婦との共同生活の中で少年はどのようにふるまったのか。整理する。 3 「少年らしくない少年がいることがわかったわ」(41・3)とあるが、少女のいう「少年らしくない少年」とはどのようなものか。整理する。 4 この小説のおもしろさはどこにあるか。「今日も少年は歩く……特許出願中」(41・12～13)の部分に留意して話し合う。 5 「あなたのおかげで、少年らしくない少年がいることがわかったわ」(41・3)とあるが、「らしさ」とは何だろうか。具体例を挙げて話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	
		7	学びを広げる 小説の書き換え ●主人公の設定を変え、小説を書き換える。	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 「少年という名前のメカ」の主人公の設定を変え、もう一つの「〇〇という名前のメカ」の物語を作る。 ①「少年という名前のメカ」の冒頭部分(35・1)にならって次の文の空欄を埋め、主人公の基本的な設定を決定しよう。 〇〇という名前のメカの記憶装置には、()がはじめからインプットされている。だから〇〇は()。 ②主人公の設定をもとに、主人公にふさわしい物語の構想を練ろう。その際、次の点に留意しよう。 ・主人公は、いつ、どこで、どのような人物に出会うか。 ・そこでどのようなできごとに出会い、どのような会話が交わされるか。 ・主人公はどのように行動し、その行動を周囲の人々はどのように受け止めるか。 ・主人公はどのように人々と別れるか。 ③五、六人のグループに分かれ、それぞれの「作品」を発表し合い、感想を交換しよう。 ④感想交換を受けて、改めて自分の書いた「作品」を振り返り、創作活動を自己評価しよう。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。(1)エ) 思・判・表 ①読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。(書イ) 主(例) ・進んで文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について体系的に理解し、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫しようとしている。 ◆言語活動例 ・登場人物の心情や情景の描写を、文体や表現の技法等に注意して書き換え、その際に工夫したことなどを話し合ったり、文章にまとめたりする活動。(書イ)

月	単元名	時数	教材名 ●学習目標	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	三 詩歌	6	今日 わたしを束ねないで 帰途 ●表現形式や修辞の効果に着目し、それぞれの詩の理解を深める	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 [今日] 1 この詩の展開について、次の言葉に着目して説明する。 ・「ふたたび」／「ただ」／「ばかり」／「だけ」／「まで」 2 第三連「生きることそれが烈しく今日である」には、どのような思いが込められているか、説明する。 3 第四連「今日を愛すること／ひとつの短かい歌が死に／今日が小さな喪に捧げられるまで」とはどういうことだろうか、話し合う。 [わたしを束ねないで] 1 「わたし」は各連でそれぞれどのようなものにとえられているか。また、それらからどのような意味やイメージを受け取ることができるか、まとめる。 2 「束ねないで」「止めないで」「注がないで」「名付けないで」「区切らないで」という表現には、それぞれどのような思いが込められているか、話し合う。 [帰途] 1 「言葉のない世界」とはどのようなものか、次の詩句に着目して説明する。 ・あなたが美しい言葉に復讐されても／そいつはぼくとは無関係だ 2 次の詩句からどのような意味やイメージを受け取ることができるか、まとめる。 ①沈黙の舌からおちてくる痛苦 ②果実の核ほどの意味 ③この世界の夕暮れの／ふるえるような夕焼けのひびき 3 「言葉なんかおぼえるんじゃなかった」という詩句に込められた「ぼく」の思いについて、最後の二行に着目して話し合う。 [各教材] ・それぞれの詩のリズム・言葉の響き・内容に注意して読み方を工夫し、朗読する。 ・印象に残った詩を一編選んで、四〇〇字程度で感想を書く。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。(1)ウ ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。(3)ア ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(3)イ 思・判・表 ①文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。(読ア) ②他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。(読ウ) 主(例) ・進んで文学的な文章を読むことを通して我が国の言語文化の特質について理解を深め、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察しようとしている。
			木に花咲き —短歌十五首 ●それぞれの短歌に詠まれた情景や心情を理解する	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 それぞれの短歌について、リズムや響きに注意して音読する。 2 それぞれの短歌について、表現上の工夫に留意し、歌われている情景や感動の中心について説明する。 3 「愛恋」「自然」「いのち」「戦争」「学園」という組み合わせの中から、印象に残った一組を選び、それぞれの短歌の着想のおもしろさや表現の違いについて話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	

月	単元名	時数	教材名 ●学習目標	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
		8	学びを広げる 短歌を創作する ●日常生活の中で感じたことをもとに短歌を創作する	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 「おかしなたとえになるが、……自分自身の体験とはかけ離れた一瞬の衝撃を通過することによって、より普遍的な共感の次元へ運ばれることになる」(60 上・15～下・2) とある。「木に花咲き—短歌十五首」から一首を選び、「クビレ」にあたる部分を指摘し、その歌からどんなことが想像されるか、発表する。 2 「俵作品では、……単に『麦わら帽子』を思い出と呼ぶよりもさらに深い共感の次元をひらいている」(61 上・14～19) とある。この文章に即して、次の手順によって短歌を作ってみよう。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。((1)イ) ・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。((1)エ) 思・判・表 ①文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にすること。(書ア) 主(例) ・進んで情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにし、文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしようとしている。 ◆言語活動例 ・自由に発想したり評論を参考にしたりして、小説や詩歌などを創作し、批評し合う活動。(書ア)
四	小説(二)	7	ひよこの眼 ●回想形式に留意して、小説の内容を理解する	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 「私」と「幹生」の関係はどのように変化していくか、次の二点からまとめる。 ①「私」の「幹生」への気持ち ②「幹生」の「私」への態度 2 「私が、幹生の瞳に出会った時、私の記憶を疼かせたのは、あのひよこの目だったのだ」(78 上・14) とあるが、どういうことか、説明する。 3 「でも、私に、いったい、何がしてあげられるのだろう。ひよこは、とうの昔に死んでしまったのだ」(79 上・5) とあるが、この時「私」を捉えていたのはどのような感情か、説明する。 4 「ひよこの眼」とは何か、話し合う。 5 「ひよこの眼」は、現在の「私」が過去の「私」を振り返って語る回想形式の小説であるが、回想といっても、物語内のすべてのできごとが「過去を振り返る」という形で語られているわけではない。どのような語り方がなされているかを調べ、その効果について話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。((1)ア) ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。((3)ア) 思・判・表 ①文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。(読ア) ②文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。(読エ) 主(例) ・進んで言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解し、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ解釈の多様性について考察しようとしている。

月	単元名	時数	教材名 ●学習目標	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
			<p>神様</p> <p>●非現実的な設定をもつ小説の魅力について考える</p>	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 「わたし」は「くま」に対してどのような印象をもったか、次の場面に即して整理する。</p> <p>①「くま」が越して来た時 ②川原までの路上にて ③川原にて ④「散歩」を終えた後</p> <p>2 「わたし」は人間社会で生きている「くま」の境遇についてどのように感じているのだろうか、考える。</p> <p>3 「悪くない一日だった」(90・7)とあるが、「わたし」がそのように思ったのはなぜか、話し合う。</p> <p>4 「神様」という題名にはどのような意味が込められているか、話し合ってみよう。</p> <p>5 非現実的な設定をもつ物語が読者を引きこむ力を手に入れるためには、読者の心を動かす言葉の工夫が必要になる。「神様」にはどのような工夫があるか、話し合う。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	
			<p>学びを広げる</p> <p>書評</p> <p>●解釈の根拠を明確にし、引用を工夫して、説得力のある書評を書く</p>	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 これまでに読んだ本の中から論じてみたい一冊を選び、一二〇〇字程度の書評を書く</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>知・技</p> <p>・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。(1)ウ)</p> <p>思・判・表</p> <p>①文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。(読ア)</p> <p>主(例)</p> <p>・進んで文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深め、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えようとしている。</p> <p>◆言語活動例</p> <p>・作品の内容や形式について、書評を書いたり、自分の解釈や見解を基に議論したりする活動。(読ア)</p>

月	単元名	時数	教材名 ●学習目標	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	五 翻案	7	ありときりぎりす [参考]セミとアリ ●翻案小説の魅力について考える	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 「ありときりぎりす」と「セミとアリ」を読み比べ、物語の形式（語り手、人称や視点、登場人物とその呼称）、ストーリー展開、描写のあり方について、その共通点と相違点を整理する。 2 「ありときりぎりす」について、「セミとアリ」を参考にしながら、次の①から③の課題に取り組む。 ①この物語では、「おれ」が語り手として設定されている。そのことはどんな効果を生んでいるか。 ②この物語では、語り手はきりぎりすのことを「あの男」「その男」「男」と呼んでいる。そのことにどのような意味があるか。 ③この物語の心理や情景の描写のすぐれたところはどこか。また、それはどのような点ですぐれているか。 3 「ありときりぎりす」のおもしろさはどこにあるのか、話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。(1)ウ ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(3)イ 思・判・表 ①文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。(読ア) ②他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。(読ウ) 主(例) ・進んで文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深め、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察しようとしている。
		7	学びを広げる 翻案作品をつくる ●古典を題材にして翻案小説を書く	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 物語の形式、ストーリー展開、心理や情景の描写、会話、歌の扱い方などを工夫して、「姨捨」の翻案小説を書く。 2 完成した作品を発表し、批評し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ ・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。(1)エ 思・判・表 ①文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫している。(書ウ) 主(例) ・進んで文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について体系的に理解して使い、文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫しようとしている。 ◆言語活動例 ・古典を題材として小説を書くなど、翻案作品を創作する活動。(書ウ)

月	単元名	時数	教材名 ●学習目標	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
六	戯曲の言葉	7	戯曲の中の対話 [参考]平田オリザ『東京ノート』より ●芝居のせりふと日常会話、戯曲の対話と小説の会話の違いを理解する	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を読んで、次の二点について要点を整理する。 ①芝居のせりふと日常会話との違い ②戯曲の対話と小説の会話の違い 2 「東京ノート」(117ページ)の会話を読んで、話し言葉で書かれたせりふの特徴を指摘する。 3 「東京ノート」の会話を配役を決めて読む。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。(1)ウ ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(3)イ 思・判・表 ①語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。(読イ) ②作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。(読カ)
			戯曲 書く女(抄) ●読み合わせを通して戯曲の言葉の特徴を理解する	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 演技者全員が集まり、配役にしたがって戯曲を読むことを「読み合わせ」と呼ぶ。配役(ト書きを読む役を含む)を決めて「書く女(抄)」の「読み合わせ」をする。 2 おもしろいと思った場面、印象に残った場面を取りあげ、その理由について話し合う。 3 登場人物の会話は現代の人々の会話とどのように違うか、話し合う。 4 戯曲の言葉と小説の言葉とはどのように違うか、あるいは、戯曲と小説とでは、場面や人物の描き方にどのような違いがあるか、調べて気づいたことを話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	主(例) ・進んで文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深め、作品の内容や解釈を踏まえ人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。
			学びを広げる 戯曲 ●戯曲の言葉の特徴をふまえ、小説の一節や短い物語を戯曲に書き換える	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 「書く女」を参考にして、小説の一場面やイソップ寓話などの短い物語をもとに戯曲を書く。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。(3)ア 思・判・表 ①文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。(読ア) 主(例) ・進んで文学的な文章を読むことを通して我が国の言語文化の特質について理解を深め、文章の種類を踏まえて内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えようとしている。 ◆言語活動例 ・小説を、脚本や絵本などの他の形式の作品に書き換える活動。(読ウ)

月	単元名	時数	教材名 ●学習目標	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
七	小説(三)	9	<p>こころ</p> <p>●小説の形式や表現の特色に留意して、登場人物の言動や心情を理解する</p>	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 「お嬢さん」に恋をしたことにより「K」の態度や様子はどのように変わったか。整理する。</p> <p>2 「精神的に向上心のないものはばかだ」(152下・12)、「精神的に向上心のないものは、ばかだ」(154上・1)という言葉、「私」はどのような意図をもって口にしたのか。また、その言葉を聞いた時、「K」はどのように受けとめたと考えられるか。説明する。</p> <p>3 次のそれぞれの表現はどのようなことを表しているか。前後の記述に注意して説明してみよう。</p> <p>①私はちょうど他流試合でもする人のようにKを注意して見ていたのです。(152上・14)</p> <p>②私はただKが急に生活の方向を転換して、私の利害と衝突するのを恐れたのです。(153下・8)</p> <p>③私にはKがその刹那に居直り強盗のごとく感ぜられたのです。(154上・7)</p> <p>④「おれは策略で勝っても人間としては負けたのだ」(167上・2)</p> <p>⑤それでも私はついに私を忘れることができませんでした。(168上・5)</p> <p>4 「K」の自殺の原因について、話し合う。</p> <p>5 「こころ」全編を読む。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。(1)ア) 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。(3)ア) <p>思・判・表</p> <p>①語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。(読イ)</p> <p>②作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。(読カ)</p> <p>主(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進んで、文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深め、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して内容を解釈しようとしている。
			<p>捨てない女</p> <p>●作品世界が現代に投げかけている問題について考える</p>	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 「わたしは『処理』という言葉が好きになれない」(174下・1)とあるが、それはなぜか、考える。</p> <p>2 「短編をひとつ書くにも」(174下・7)とあるが、小説を書く過程でどのような「ゴミ」が出るのか、また「ゴミ」を出さないために「わたし」はどのような方法を思いついたか。それぞれ整理する。</p> <p>3 「わたし」は「小説の出来ばえ」をよくするためには何が必要だと考えているか。次の表現を手がかりに考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミを出すようでは小説家の屑。(176下・14) ・ゴミが出ないと、物を考え続けることができない。(177下・9) <p>4 「大きなカレー鍋に湯を煮え立たせて、……春が来て、ここに種子をまいたらどんな花が咲くのだろう」(178下・1～9)とあるが、ここには「わたし」のどのような思いが表れているか。話し合う。</p> <p>5 「捨てない女」では、言葉や文字そのものが小説の展開上重要なはたらきをしている。印象に残った表現を抜き出し、そのはたらきについて話し合う。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	

月	単元名	時数	教材名 ●学習目標	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
			学びを広げる 小説の表現／映画の表現 ●映画と原作との比較を通して、小説の表現と映画の表現の違いについて理解を深める	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 文学作品の中には映画化されているものも少なくない。関心のある作品を鑑賞し、原作との比較や批評を通して、映画の表現と小説の表現の違いについて理解を深める。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。(1)ア) 思・判・表 ①作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。(読カ) 主(例) ・進んで言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解し、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。 ◆言語活動例 ・演劇や映画の作品と基になった作品とを比較して、批評文や紹介文などをまとめる活動。(読エ)
八	評論	7	文学の仕事 ●「文学の力」について考える お砂糖とスパイスと爆発的な何か ●批評について理解を深める	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 「そういう目的は知的な活動のみからは出てこない」(186・1)とはどういうことか、説明する。 2 「自分の目の前の他者を抱きすくめる」(191・2)とはどういうことか。「アングロプロスの話」「孔子の牛の話」「『巨匠』」のそれぞれの場合について、まとめる。 3 「文学の力」(191・6)とは何か。筆者の考えをまとめる。 4 筆者のいう「文学の力」についてどう思うか、これまでの読書体験を振り返って、話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。 ◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 筆者の考える「批評の仕事」(194・10)とはどのようなものか、説明してみよう。 2 「私が考える一番わかりやすそうな批評のやり方」(195・14)とは何か、整理する。 3 「気をつけなければいけないのは、『自由な解釈』というのは実は全然自由なんかじゃない」(198・11)とあるが、どういうことか。説明する。 4 「フェミニスト批評」「クィア批評」がもたらす「楽しみ」について、筆者はどのように説明しているか、まとめる。 5 筆者のいう「批評のやり方」(195・14)にならって、文学作品の批評文を書く。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。(1)ア) ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(3)イ) 思・判・表 ①文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。(読ア) ②文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。(読エ) ③作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。(読カ) 主(例) ・進んで言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解し、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。

月	単元名	時数	教材名 ●学習目標	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
			<p>小説はどう読めばいいのか？ —太宰治『斜陽』の語り口</p> <p>●語り口の分析を通して小説の読み方の理解を深める</p>	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 『『どうやって』を意識する』(203・2)とは、具体的にはどのようなことを意識することか、説明する。 2 筆者は『斜陽』の文章の特徴をどのように説明しているか、まとめる。 3 「このような破れ目にこそ小説の『『どうやって』の秘密がある』(209・12)とはどういうことか、説明する。 4 これまでに読んだ小説を「どうやって」を意識して読み直す。 <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	
			<p>学びを広げる</p> <p>批評</p> <p>●観点を明確にして文学作品の批評文を書く</p>	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教科書に掲載されている文学作品の中から一つを選び、自分なりの観点から「批評文」を書いて、発表する。その際には、以下の文章によって示されたことに留意しよう。 <p>第一歩というのは、人生における価値を考えるためには、すでに出来上がった、社会的約束事として通用しているものから、まず自らを解放することです。(「文学の仕事」)</p> <p>気をつけなければいけないのは、「自由な解釈」というのは全然自由なんかじゃない、ということです。人間は今まで生きてきた世界によって、知らないうちにものの見方を規定されてしまっています。(「お砂糖とスパイスと爆発的な何か」)</p> <p>自分がどう小説を読んだか。その道筋を意識的に辿り直すと、私たちはしばしばこのような破れ目や限界に突き当たります。(「小説はどう読めばいいのか？ —太宰治『斜陽』の語り口」)</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。(1)ウ) <p>思・判・表</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。(読キ) <p>主(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深め、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。 <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の内容や形式に対する評価について、評論や解説を参考にしながら、論述したり討論したりする活動。(読イ)

第二部

月	単元名	時数	教材名 ●学習目標	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	一 読むこと・書くこと・語ること ——文学国語の広がり	6	本を読むと路に迷う ●本を読むことの「幸福」について考える	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 次の表現には、筆者のどのような思いが述べられているか、それぞれ説明してみよう。 ①本を読んでいると空間はことばだけになる。(214・6) ②本をひらくと路がふえる。(215・15) ③学問として「読む」(216・12) 2 「本を読むと路に迷う」というタイトルは筆者のどのような読書体験に基づいたものだろうか、話し合ってみよう。 3 あなたの「ひたすら幸福な、たったひとりだけ」の読書体験について発表してみよう。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。((1)ア) ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(3)イ
			想像し物語ること ●「想像力」のはたらきを理解する	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 筆者のいう「想像力」のはたらきを、次の事例に即してまとめる。 ①原爆病院の老婦人の場合 ②『アンナ・カレーニナ』や『ボヴァリー夫人』を読む場合 ③大岡昇平の『歩哨の眼について』の場合 2 「老婦人」の次の言葉はどのような意味をもつか、説明する。 ①「これよりもずっと恐ろしかったですよ」(221・8) ②「こんなに昂奮しておもしろい時をすごしたことはありませんでした！」(226・6) 3 「秀れた小説」(227・3)とはどのようなものか。バシュエールのいう「想像力」を手がかりにまとめる。 4 「想像力がフル回転をしている」(223・1)とあるが、こうした経験について身近な具体例を発表する。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	思・判・表 ①文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。(読ア) ②作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。(読カ) 主(例) ・進んで言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解し、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えようとしている。

月	単元名	時数	教材名 ●学習目標	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	二 小説 (二)	7	ベル・エポック	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 引越しの日までに「私」と「みちかちゃん」に起こったできごとを、時間順に整理する。</p> <p>2 次の場面における「私」の心情を説明する。</p> <p>①みちかちゃんは呟くように、優しく「ばかなやつ」と言った。(233上・12)</p> <p>②みちかちゃんの匂いも、誠さんの匂いも、ゆっくりこの部屋から抜けて空に昇っていくんだろう。(23上・15)</p> <p>③いつまでも、最後のひとすくいを残して喋った。(237上・3)</p> <p>3 「みちかちゃんは実家には帰らない」(237下・4)とあるが、「私」はなぜそう思ったのか、説明する。</p> <p>4 「きつとみちかちゃんは携帯の番号さえも変えてしまうのだろうと思った」(238下・1)とあるが、なぜ「私」はこう思うのか、話し合う。</p> <p>5 「ベル・エポック」という題名にはどのような意味がこめられているのか。考えたことを話し合う。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>知・技</p> <p>・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。(1)ア)</p> <p>・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(3)イ)</p> <p>思・判・表</p> <p>①語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。(読イ)</p> <p>②文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。(読エ)</p> <p>主(例)</p> <p>・進んで人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深め、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈しようとしている。</p>
			鞆	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 「さんざん迷ったあげく、一種の消去法と言いますか、けっきょくこじかぬことがわかったわけです」(241・6)とあるが、どういうことか。まとめる。</p> <p>2 鞆に対する「私」の考え方はどのように変化したか、整理する。</p> <p>3 この物語は私たちにどのような問題を投げかけているだろうか。「選ぶ道がなければ、迷うこともない。私は嫌になるほど自由だった」(245・11)に着目して話し合う。</p> <p>4 「鞆」とは何か、その象徴的意味について話し合う。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	

月	単元名	時数	教材名 ●学習目標	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
		7	象徴 ●「鞆」の意味を考えるを通して、自分のものの見方、考え方を深める	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 小説「鞆」を手がかりに、象徴について考える。 ①自分にとって「鞆」にあたるものは何か、発表し、話し合う。 ②話し合いをふまえ、「鞆」という題で六〇〇字の文章を書く。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(3)イ 思・判・表 ①作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。(読カ) 主(例) ・進んで人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深め、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。 ◆言語活動例 ・作品の内容や形式について、書評を書いたり、自分の解釈や見解を基に議論したりする活動。(読ア)

月	単元名	時数	教材名 ●学習目標	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	三 詩歌	7	<p>永訣の朝</p> <p>ギリシア的抒情詩</p> <p>のちのおもひに</p> <p>●表現形式や修辞の効果に着目し、それぞれの詩の理解を深める</p>	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 〔永訣の朝〕</p> <p>1 「わたくし」の行動と心情の変化を考えながら、全体を四つの部分に分ける。</p> <p>2 次の詩句には、「わたくし」のどのような思いが表れているか、それぞれ説明する。 ①うすあかくいつそう陰惨な雲 ②みなれたちやわんのこの藍のもやう ③やさしくあをじろく燃えてゐる ④あんなおそろしいみだれたそらから／このうつくしい雪がきたのだ</p> <p>3 「(あめゆじゆとてちてけんじや)」の繰り返し表現や次の詩句の表記の仕方は、この詩にどのような効果をもたらしているか、それぞれ説明する。 ① (Ora Orade …… egumo) ② (うまれてくるたて……うまれてくる)</p> <p>4 「おまへがたべるこのふたわんのゆきに……わたくしのすべてのさいはひをかけてねがふ」には、「わたくし」のどのような思いが込められているだろうか、話し合う。 〔ギリシア的抒情詩〕</p> <p>1 「天気」を読んで、どのようなイメージが浮かんでくるか、また、それはどの表現の効果によるか、説明する。</p> <p>2 「雨」を読んで、「……をぬらした」の繰り返しがどのようなイメージの広がりをもたらしているか、また、「私の舌をぬらした」とはどのようなことか、それぞれ説明する。 〔のちのおもひに〕</p> <p>1 この詩の形式や表現の特徴について、説明する。</p> <p>2 次の詩句はどのような思いを表現したものか、説明する。 ①—そして私は／見て来たものを 島々を 波を 岬を 日光月光を／だれもきいてみないと 知りながら 語りつづけた…… ②夢は 真冬の追憶のうちに凍るであらう／そして それは戸をあけて 寂寥のなかに／星くづにてらされた道を過ぎ去るであらう</p> <p>3 この詩の背景にどのような物語を想像することができるか、話し合う。 〔各教材〕</p> <p>1 それぞれの詩のリズム・言葉の響き・内容に注意して読み方を工夫し、朗読する。</p> <p>2 印象に残った詩の作者を一人選んで、その生涯や作品、文学史的な位置づけなどについて調べ、発表する。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。(1)ア) 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。(3)ア) <p>思・判・表</p> <ul style="list-style-type: none"> ①他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。(読ウ) ②設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。(読キ) <p>主(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進んで言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解し、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察しようとしている。

月	単元名	時数	教材名 ●学習目標	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
			渡り鳥 一俳句十五句 ●それぞれの俳句に詠まれた情景や感動の中心を理解する	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 それぞれの俳句について、表現されている情景や感動の中心を説明する。 2 季語のある句については季語とその季節を指摘し、切れ字のある句については切れ字を指摘して、その表現効果を説明する。 3 「鳥」「虫」「旅」「戦争」「野菜」という組み合わせの中から、印象に残った一組を選んで、それぞれの俳句の表現の違いや着想のおもしろさについてまとめ、話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	
			学びを広げる アンソロジー ●アンソロジーの作成と相互批評を通して詩歌への関心を深める	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 [資料]を参考に、次の手順にしたがって、テーマを立てて歌詞のアンソロジーを作り、発表し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(3)イ 思・判・表 ①設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。(読キ) 主(例) ・進んで人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深め、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。 ◆言語活動例 ・テーマを立てて詩文を集め、アンソロジーを作成して発表し合い、互いに批評する活動。(読オ)

月	単元名	時数	教材名 ●学習目標	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
四	文学の共同制作	7	連詩の愉しみ ●文学の共同制作の意義を考える	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 オクタヴィオ・パスは「Renga」(連歌)を試みた体験についてどのように述べているか、まとめる。</p> <p>2 次の①～③はどのようなことを述べたものか、本文に即して説明する。</p> <p>①連句や連詩が……詩的契機の最重要の要因として持つ (271・7～8)</p> <p>②堪えがたい暴力的な内部への侵犯 (272・2)</p> <p>③連歌は日本人に対し、……交換と承認が形づくる円環へと転じる可能性を提供した (273・10～11)</p> <p>④連詩という詩の形式は、……きわめて親身に敏感な鑑賞者・批評家であることを要求します。(277・3.5)</p> <p>3 筆者は連詩の意義をどのように捉えているか、整理する。</p> <p>4 「他者との能動的な関係」(271・9) から生まれた芸術作品にはどのようなものがあるだろうか、調べて発表する。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。(1)ア) 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。(1)ウ) <p>思・判・表</p> <p>①作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。(読カ)</p> <p>②設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。(読キ)</p> <p>主(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進んで文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深め、作品の内容や解釈を踏まえ人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。
			ヤングの連句 —半歌仙『赤城おろし』の巻 ●連句の詠み方・進め方を実例を通して理解する	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 半歌仙『赤城おろし』の巻について、本文を手がかりに前句と付句のつながり方を説明する。</p> <p>2 連句の詠み方や進め方について、わかったことを発表する。</p> <p>3 連句の形式や式目(ルール)について図書館やインターネットなどを利用して調べる。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	

月	単元名	時数	教材名 ●学習目標	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
		8	学びを広げる 連詩を作る ●連詩をつくることを通して、文学の共同制作の意義を理解する	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 四人でグループをつくり、連詩を詠む順番を決めておく。一人あたり二行～四行程度の詩句を書く。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) ・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解使っている。((1)エ) 思・判・表 ①文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかななどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。(書エ) 主(例) ・進んで情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにし、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかななどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしようとしている。 ◆言語活動例 ・グループで同じ題材を書き継いで一つの作品をつくるなど、共同で作品制作に取り組む活動。(書エ)
五	小説(二)	7	靴の話 ●「事実」という言葉を手がかりに「私」の戦争体験を理解する	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 『西部戦線異状なし』の『ケンムリッヒの長靴』という挿話(288・1)における「ただ事実のみが僕らにとって正しく且つ重要であった」(288・10)とはどういうことか。「わざとらしい感情を持っていなかった」ということに留意して、説明する。 2 「結局靴だけが『事実』である。こういう脆い靴で兵士に戦うことを強いた国家の弱点だけが『事実』である」(295・3)とはどういうことか。「私」の「戦場」での体験をふまえて、まとめる。 3 「夜、鮫皮の靴を敷地の隅へ埋めてきた」(297・7)には「私」のどのような思いが示されているか。説明する。 4 「収容所でも戦場と同じく『事実』だけが『正しく且つ重要であった』のである。欠乏のあるところ常に『事実』がある」(297・11)とはどういうことか。「私」の「収容所」での体験をふまえて、まとめる。 5 大岡昇平の戦争文学作品やその背景について調べ、発表する。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。((1)ア) ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。((3)イ) 思・判・表 ①語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。(読イ) ②他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。(読オ) 主(例) ・進んで人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深め、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈しようとしている。

月	単元名	時数	教材名 ●学習目標	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
			<p>夏の花</p> <p>●「私」が目撃した原爆投下後の光景を、時系列に即して理解する</p>	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 「私」が目撃した光景について、次の①～④の項目ごとに整理する。</p> <p>①八月六日、被爆直後の「私」の家の様子</p> <p>②八月六日、家を出てから川岸で一夜を明かすまで</p> <p>③八月七日、川岸を離れ、施療所の近くに身をおくまで</p> <p>④八月八日、施療所の近くを出て、馬車で八幡村へ移動している時</p> <p>2 次の①・②の記述には「私」のどのような思いが示されているか、説明する。</p> <p>①かねて、二つに一つは助からないかもしれないと……知ってはいなかったのである。(304下・2.下・8)</p> <p>②ギラギラノ破片や……ブスブストケムル電線ノニオイ (315下・1～下・9)</p> <p>3 この〈手記〉はなぜ「N」の体験で結ばれているのか、冒頭の墓参の記述にも留意しながら話し合う。</p> <p>4 広島、長崎への原子爆弾投下や被爆体験を題材にした文学作品について調べ、紹介する。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	
			<p>学びを広げる</p> <p>戦争の記憶</p> <p>●戦争の記憶を語り継ぐことの意義を考える</p>	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 「靴の話」「夏の花」「死者の声を運ぶ小舟」を読んだ感想をもとに、戦争の記憶を語り継ぐことの意味について話し合う。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>知・技</p> <p>・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(3)イ)</p> <p>思・判・表</p> <p>①設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。(読キ)</p> <p>主(例)</p> <p>・進んで人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深め、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。</p> <p>◆言語活動例</p> <p>・作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり短い論文などにまとめたりする活動。(読カ)</p>

月	単元名	時数	教材名 ●学習目標	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	六 翻訳の言葉	7	『雪国』の謎 一夜の底とは何か ●優れた翻訳について考える	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 筆者は「夜の底が白くなった」という一文をどのように理解しているか、まとめる。</p> <p>2 次の言葉はサイデンステッカーの英語訳の特徴についてどのようなことを指摘しているのか、原作と英語訳とを読み比べ、説明する。 ・「書き手の主観的な『声』を排除して、雪国の景色は汽車も夜も雪国を『外』から、いわば神のような全知の視点で捉えられている」(332・6)</p> <p>3 「原作と英語訳の表現の違いが、日本語と西欧語の本質的な差異と関連づけられている」(332・12) とあるが、どういうことか、説明する。</p> <p>4 「しかし、議論の筋道として、言語に内在する違いから『雪国』の原作と英訳の違いが生じているというのは、どうも奇妙です」(333・4) とあるが、筆者は『雪国』の原作と英訳の違いについて、どのように考えるべきであると述べているか、まとめる。</p> <p>5 本文を参考にして、これまでに読んだ翻訳作品の中で心に残ったものを紹介する。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。(1)ア) ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(3)イ) <p>思・判・表</p> <ul style="list-style-type: none"> ①他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。(読ウ) ②文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。(読エ) <p>主(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解し、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察しようとしている。

月	単元名	時数	教材名 ●学習目標	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
			<p>涙の贈り物</p> <p>●文体の特徴や表現の特色に注意して作品を読み、翻訳小説の魅力について考える</p>	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 「私」とエドはそれぞれどのような人物か。エドのおかれている境遇と「私」の役割を中心に整理する。</p> <p>2 次の①・②に表れたエドの気持ちを説明する。 ①「あ、そうだ」とエドは言った。……「やることがありすぎるもの」(337下・11～338上・7) ②「だんだんよくなってるんだよ」とエドは言った。「入院してよかったもの。……体重も一キロ半増えたし」(338下・6～8)</p> <p>3 「私」はどのような思いでエドに接しているか。「『あ、そうだ』とエドは言った」(337下・11)から「みんな金切り声を上げ、槍を持って駆けまわっていた」(339下・7)までのやりとりに着目して説明する。</p> <p>4 「いままで命令口調になったことは一度もなかった」(341上・3) エドが、突然「私」に命令したり、どなったりしたのはどうしてだろうか、説明する。</p> <p>5 「訓練では、相手が『言語的・肉体的暴力』をふるい出したらその場を立ち去るべし、と教わる。でもこれはそういうのとは違う」(343上・1)とあるが、どう違うと「私」は感じたのだろうか、説明する。</p> <p>6 「涙の贈り物」という表題の意味について、話し合う。</p> <p>7 「涙の贈り物」の原典「THE GIFT OF TEARS」の最後の段落を翻訳と読み比べて、気づいたことを話し合う。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	
			<p>学びを広げる</p> <p>翻訳の創造性</p> <p>●外国文学を翻訳で読むことの意味を考える</p>	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 「翻訳の創造性」を参考にして、外国文学を翻訳で読むこと、日本文学が外国語に翻訳されて読まれていることの意味について話し合う。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>知・技</p> <p>・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。(3)ア</p> <p>思・判・表</p> <p>①作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。(読力)</p> <p>主(例)</p> <p>・進んで文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深め、作品の内容や解釈を踏まえ人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。</p> <p>◆言語活動例</p> <p>・作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり短い論文などにまとめたりする活動。(読力)</p>

月	単元名	時数	教材名 ●学習目標	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	七 小説 (三)	7	檸檬	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 「その頃」(350下・3)(352上・17)の「私」はどのような状態であったか、また、どのようなものに心ひかれていたか。「生活がまだ蝕まれていなかった以前」(352上・11)と比較して整理する。</p> <p>2 「私はずかずか入って行った」(355下・10)から「私はすたすた出て行った」(357上・7)までの「私」の心情の変化を整理する。</p> <p>3 「私」にとって「檸檬」とはどのようなものか。檸檬の描写に留意して話し合う。</p> <p>4 現在の「私」はどのような思いで過去を回想しているか。次の三つの文をふまえてまとめる。 ①なぜだかその頃私は……覚えている。(350下・3～4) ②それにしても心というやつは何という不思議なやつだろう。(354下・4) ③ 実際あんな……それがあの頃のことなんだから。(355上・3～6)</p> <p>5 文学作品で事物がもつ象徴的な意味について、「檸檬」における丸善などを例に、話し合う。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。(1)ア) 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。(3)ア) <p>思・判・表</p> <p>①文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。(読エ)</p> <p>②作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。(読オ)</p> <p>主(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進んで言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解し、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ解釈の多様性について考察しようとしている。
			舞姫	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 この作品は、太田豊太郎の〈手記〉の形式となっている。豊太郎の幼少の頃からこの〈手記〉を書いている現在までのできごとを、豊太郎の体験した順序にしたがって整理する。</p> <p>2 次の時期において、自らの生き方や学問に対する豊太郎の考え方はどのように変化していったか、整理する。 ①ドイツ滞在三年が過ぎる頃まで(361・6～363・11) ②二十五歳を迎えた時から相沢からの手紙が届いた頃まで(363・12～379・2) ③相沢との再会・ロシア随行から再びベルリンに戻った頃まで(379・3～387・12)</p> <p>3 豊太郎のエリスに対する気持ちはどのように変化していったか。豊太郎の行動に留意して整理する。</p> <p>4 豊太郎は、相沢からどのような「助け」を受けたか、整理する。</p> <p>5 この〈手記〉はなぜ、「恩人」であり「良友」である相沢を「憎む心」で結ばれているのだろうか。〈手記〉の初めにある「人知らぬ恨み」(360・11)という言葉に留意して話し合う。</p> <p>6 小説において手記形式がもつ意味について、考えたことを話し合う。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	

月	単元名	時数	教材名 ●学習目標	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
			学びを広げる 時代背景 ●「檸檬」「舞姫」の舞台・時代背景を調べ、作品への理解を深める	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 「檸檬」や「舞姫」の舞台、時代背景について調査し、小説の理解を深める。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(3)イ 思・判・表 ①作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。(読オ) 主(例) ・進んで人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深め、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めようとしている。 ◆言語活動例 ・作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり短い論文などにまとめたりする活動。(読カ)
八	評論	7	陰翳礼讃 ●それぞれの評論について文体の特色を理解する	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 「事実、『闇』を条件に入れないければ漆器の美しさは考えられないと言っていい」(397上・8)とあるが、筆者は漆器と闇との関係をどのように捉えているか、まとめる。 2 「日本の料理は食うものでなくて……無言の音楽の作用なのである」(399上・10～下・3)とあるが、これはどういうことを言っているのか、説明する。 3 次の表現から、筆者のものの捉え方・感じ方の特色がどのような点にあるのか、説明する。 ①夜そのものに蔦絵をしたような綾を織り出す(398上・14) ②生まれたての赤ん坊のぷよぷよした肉体を支えたような感じ(398下・5) ③腕がかすかに耳の奥へ沁むようにジイと鳴っている、あの遠い虫の音のような音(399上・5) ④あたかも室内の暗黒が一個の甘い塊になって舌の先で融けるのを感じ(400上・1) 4 筆者が「陰翳礼讃」という言葉にこめた思いはどのようなものか、まとめる。 5 現代の私たちの生活の中に、「陰翳」を基調とする美しさを見出すことができるだろうか、話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。(1)ウ ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。(3)ア ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(3)イ 思・判・表 ①文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。(読ア) ②文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。(読エ) 主(例) ・進んで人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深め、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えようとしている。

月	単元名	時数	教材名 ●学習目標	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
			<p>無常ということ</p> <p>●それぞれの評論について文体の特色を理解する</p>	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 「実は、何を書くのか半然しないままに書き始めている」(402下・8)とあるが、筆者がこの文章を書いたきっかけをまとめる。</p> <p>2 本文中の次の部分は、それぞれどういうことを述べたものか、説明する。</p> <p>①そういう便利な考え(402下・7)</p> <p>②自分が生きている証拠だけが充満し、その一つ一つがはっきりとわかっているような時間(403下・14)</p> <p>③この一種の動物という考え(404下・12)</p> <p>④過去から未来に向かって飴のように伸びた時間という蒼ざめた思想(405上・7)</p> <p>3 筆者は、「歴史」と「思い出す」ということの関係はどうあるべきだと述べているか、説明する。</p> <p>4 「現代人には、鎌倉時代のどこかのなま女房ほどにも、無常ということがわかっていない。常なるものを見失ったからである」(405上・13)とはどういうことを述べたものか、話し合う。</p> <p>5 「解釈だらけの現代」(404上・16)とあるが、この文章が書かれたのはどのような時代なのかを調べ、発表し合う。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	
			<p>学びを広げる</p> <p>文体</p> <p>●近代小説の文体の歴史的変遷について理解を深める</p>	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 「文体の持つ力」に森鷗外の『舞姫』(明治二三年)も……場面に応じて異質な文体が巧みに使分けられている」(409上・5～8)とあるが、筆者の指摘を『舞姫』の本文(359～391)を読んで確かめる。</p> <p>2 次の①～⑧の文章を読み、江戸後期から明治期までの小説の文体の変遷について気づいたことを発表する。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>知・技</p> <p>・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(3)イ)</p> <p>思・判・表</p> <p>①設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。(読キ)</p> <p>主(例)</p> <p>・進んで人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深め、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。</p> <p>◆言語活動例</p> <p>・作品の内容や形式について、書評を書いたり、自分の解釈や見解を基に議論したりする活動。(読ア)</p>